

1 学校の活用事例

(2) 短い時間での活用

短い時間での活用事例は、

- ・ どんな場で
 - ・ どれくらいの時間で実施したか
- を表示しています。

短い時間での活用

【事例13】 職員朝会の5分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～「障がいの理解」のシートを配付し、校長が説明した。
- ③ 内容
 - 子どもたちや保護者に発達障がいなど、特別な教育的支援を必要とする
ことについて、理解を深めることは大切。
 - 「保護者に対する発達障がいなど特別な教育的支援についての説明例」
「子どもに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例」
をもとに、子ども一人一人に応じた指導や支援を行っていくことは、一部
の子どもへの差別やえこひいきではないという理解を深めることは大切。

【事例14】 職員朝会の5分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～特別支援コーディネーターが全教職員に「教師の好意に満ちた言葉
がけ」を説明した。
- ③ 内容
 - 通常学級における発達障がいのある児童への教師の「好意に満ちた言葉
がけ」が、その児童だけでなく、周りの児童への心理的安心感を高める。
 - 職員全員が共通理解の下、「言葉がけ」を行うことで、より効果がある。
 - うまくできないことを叱責するのではなく、どうしたらうまくできるの
かを考えて声かけをすることが大切である。
 - 「好意に満ちた言葉がけ」で、なおかつ、具体的に短く、イメージしや
すい言葉や見通しをもたせた言い方が有効である。
 - 【言葉がけ】
 - 【好意に満ちた言葉がけ】
 - ・今は〇〇はできません！ ⇒ ・△△が終わったら、〇〇ができるよ。
 - ・早くしなさい！ ⇒ ・すばやくできたら、かっこいいね。
 - ・片付けなさい ⇒ ・まずは〇〇を。次は△△を（一つ一つ）

【事例15】 職員会議の校外研修報告の10分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～「特別支援教育充実セミナー」の参加した教員の報告
- ③ 内容
 - 「校内研修プログラム」についての説明。
 - ・学校の実態に応じて、内容を選択して取り組むことができること。
 - ・校内委員会や学年・ブロック単位で取り組むことができること。
 - 演習で取り組んだ「教師の好意に満ちた言葉がけ」を紹介。

短い時間での活用

【事例16】 学級経営交流会としての15分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～学級経営上の課題を出し合い、共通した課題について、「指導や支援」のシートをもとに取組を交流。
- ③ 内容
 - 低・中・高学年グループに分かれて学級経営上の課題を出し合う。
 - 共通した課題を取り上げ、現在行っている取組を記入する。
 - 取組を交流し、参考になる事項について記録する。
 - 今後1か月、継続して取り組みたい事項を決める。
 - 1か月後に、取組の様子を撮影した写真展を行い、成果を交流することとした。



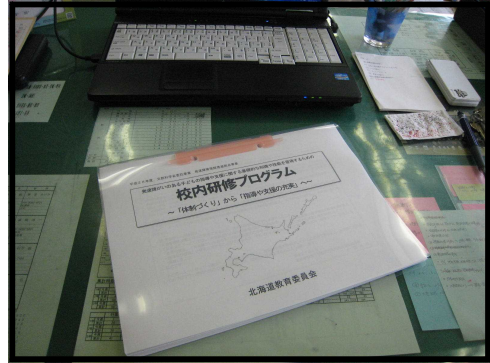
【事例17】 放課後の情報共有の15分間(中学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～授業で行っている配慮について交流。
(特別支援教育コーディネーターがあとで1枚に整理し、教職員全員に配布)
- ③ 内容
 - 授業のユニバーサルデザインとして取り組んでいることを出し合う。
(交流した主な取組)
 - ・授業の始めに、必ず、本時の目標又は目指すゴールを示している。
 - ・授業の始めは、だれもができる簡単な練習問題を実施している。
 - ・ペアワークを複数回取り入れる。
 - ・指示を出したあと、必ず指示が分かったかどうかを確認している。
 - ・目で合図したり、サインでほめたりしている。
 - ・「説明は短く、視覚に訴えて」をモットーにしている。
 - ・「できない人を笑わない」を生徒と合い言葉にしている。

短い時間での活用

【事例18】 校内研修の15分間(中学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法
 - 「校内研修プログラム」を増刷し、研修資料綴じ込み用クリアファイルを全教職員に配布し、保管や活用をしやすいとした。
- ③ 内容
 - 教頭が校内研修プログラムの概要を説明。
 - プログラムの中で、実践可能な部分から活用することを提案。
 - 特別に何かを行うという意識ではなく、当たり前のこととして、教室環境や言葉遣いに配慮することの大切さを全体で確認。



【事例19】 校内研修の30分間(高校)

- ① 対象
全教職員
- ② 方法
 - 生徒が抱えている困難性や対応について観点ごとに話し合い、一定の共通理解を図る。
- ③ 内容
 - 社会生活をした時の対人トラブルや課題が予想される生徒について
 - ・ 学校生活上の言動や様子
 - ・ 具体的な支援内容
 - ・ 支援の経過と今後の見通し
 - 学習の理解・習熟が十分でない生徒について
 - ・ 現状
 - ・ 具体的な支援内容
 - ・ 支援の経過と今後の見通し

【事例20】 パートナーティーチャー派遣事業の30分間(高校)

- ① 対象
担任、学年主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭
- ② 方法
パートナー・ティーチャー派遣事業において、特別支援学校の教諭より指導助言を受けた。
- ③ 内容
 - 研修シート試案Ⅱー1「個別の指導計画の作成」を用いて、個別の指導計画の作成の指導を受けた。その後、担任、学年主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭により、個別の事例について意見交換を行った。